

東濃・中濃地域湿地群および 美佐野のハナノキ群生地について

2023.2.5 重要湿地の保全に関する勉強会
@御嵩町中公民館

愛知学院大学教養部 准教授 富田啓介

今日の内容

1. 湧水湿地とは
2. 重要湿地「東濃・中濃地域湿地群」
3. 美佐野ハナノキ湿地群の特色と重要性
4. 保全に関する基本の考え方

湧水湿地(ゆうすいしっち)

- 貧栄養の湧水によって形成された、鉍質土壌の卓越する小面積の湿地。湿性草原・湿地林が成立。
- 地域固有種(東海丘陵要素)・絶滅危惧種(レッドリスト記載種)の生育・生息地であり、保全上重要。



湿性草原タイプ(愛知県豊田市)



湿地林タイプ(愛知県豊田市)

湧水湿地といわゆる「湿原」の比較

	いわゆる「湿原」(泥炭湿地)	湧水湿地
		
泥炭の有無	分厚く堆積	ないか、ごくわずか
存続期間	長い(数千年～1万年)	短い(数十年～数百年)
成立場所	寒冷地、高標高地	温暖地、低地～丘陵

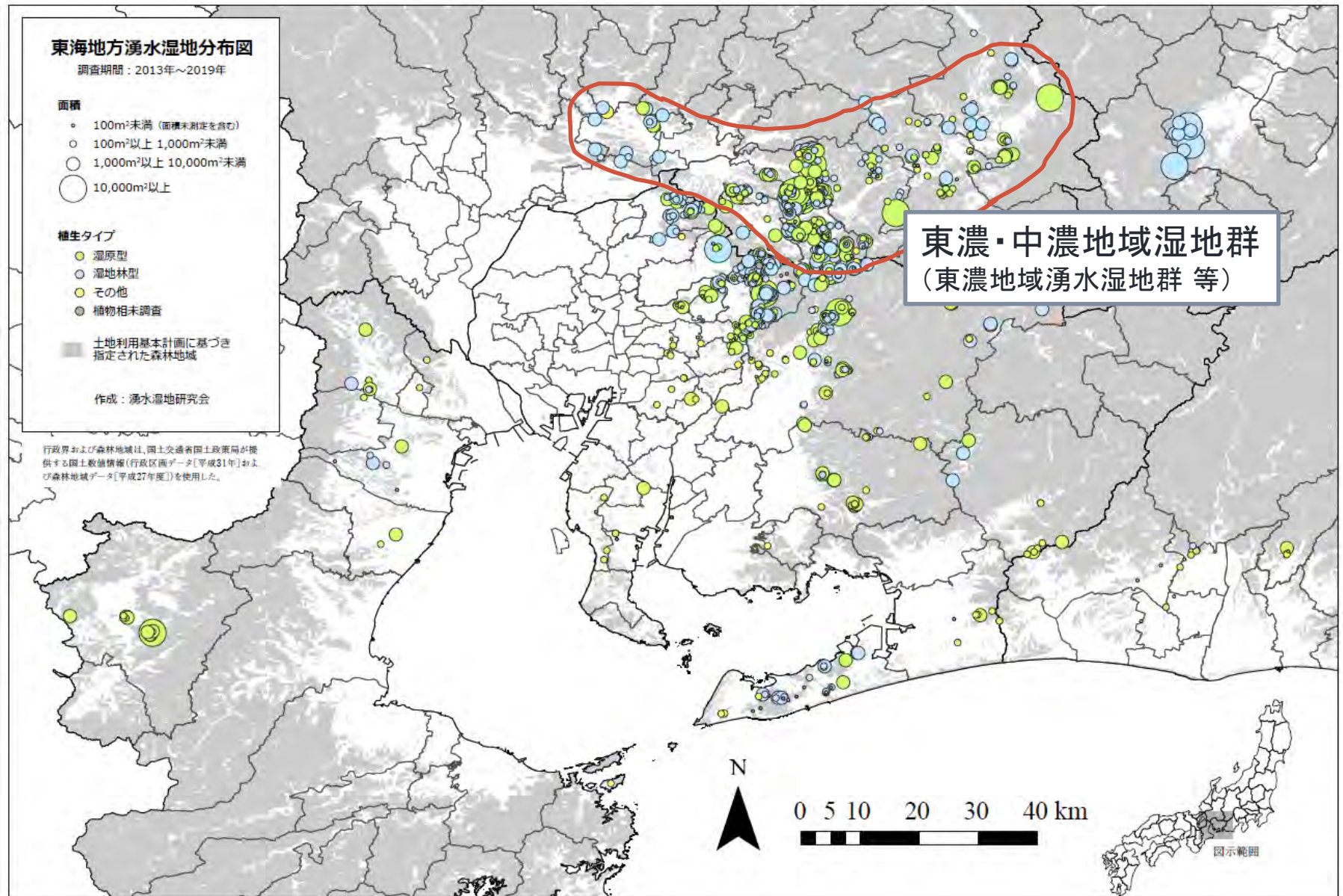
湧水湿地の分布

- 日本の広範囲に分布
- 特に東海地方・近畿地方・瀬戸内地方の丘陵地が中心。



演者および湧水湿地研究会の調査の結果明らかとなった湧水湿地の分布

湧水湿地研究会により把握された1,643カ所の湧水湿地の分布



重要湿地と東海地方の湧水湿地

- ・東海地方の湧水湿地分布域を7つに分割し、それぞれが個別の重要湿地として登録されている。
- ・いずれも**エリア全体に分布する湧水湿地を包括**する。

244 伊那谷南西部湧水湿地群

274 東濃・中濃地域湿地群(東濃地域湧水湿地群 等)

292 浜名湖周辺湧水湿地群

298 東三河・渥美半島湧水湿地群

299 西三河地域湧水湿地群

301 尾張丘陵・知多半島地域湧水湿地群

307 北勢地域湧水湿地群



「重要湿地」 No.274 東濃・中濃地域湿地群

生息・生育域	生物分類群	選定理由	選定基準
土岐市の湧水湿地群	湿原植生*	【北畑池シデコブシ湿地，園戸池・市之沢池周辺湿地群，陶史の森湿地群，妻木・大平湿地群，柿野温泉東部湿地群，入海道こぶしの里湿地，細野シデコブシ自生地など】北畑池周辺湿地群をはじめとして，シデコブシやハナノキの自生地である湧水湿地がまとまって分布する．土岐市内の湿地数は数百であり，東海地方でも類を見ない湧水湿地集中地域．湿地の広がりについてはさらに調査および検討する必要がある．	1, 2
東濃地域湧水湿地群	湿原植生*	【大森湿地群，前沢ダム周辺湿地群，窯洞ため池湿地，虎溪山湿地，竜吟湖周辺湿地群，松野湖周辺湿地群，大湫町周辺湿地群，釜戸町ハナノキ湿地群，大根山湿地，黒ノ田東湿地，根ノ上湿地，中津川市のハナノキ・シデコブシ自生地など】シデコブシ，ハナノキといった湿地林構成種が集中的に分布しているほか，ミカフバイケイソウ，トウカイコモウセンゴケなど東海丘陵要素植物も多く存在する．ヒメヒカゲなど国内で分布が限定的な希少野生生物の生息地．湿地の広がりについてはさらに検討する必要がある．	1, 2
沖ノ洞・上ノ洞の湿地	昆虫類	ハッチョウトンボ，グンバイトンボ，キブチョウの生息地．	2
大湫町の周辺湿地	昆虫類	グンバイトンボの生息地．	2
前沢湿地，須衛湿地	昆虫類	ゲンジボタル，ヒメタイコウチ，ヒメヒカゲ，ハッチョウトンボなどの生息地．	2

具体的な地点・エリア

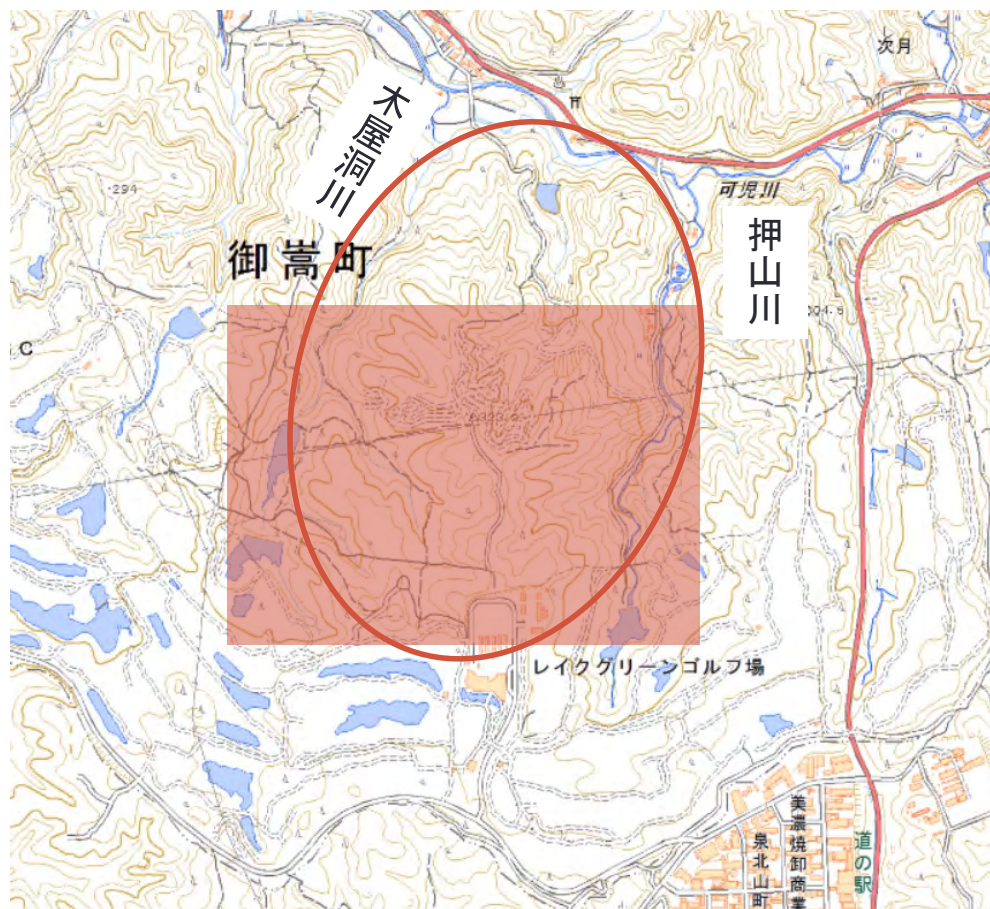
その中の代表例

東濃・中濃地域湿地群の概要

- 東濃・中濃地域には**957箇所**の湧水湿地が存在。
- 市町村別にみると、土岐市が658箇所と最も多いが、御嵩町はそれに次ぐ**82箇所**存在する。
- ハナノキ・シデコブシ・ミカワバイケイソウなど東海地方の固有・準固有種（東海丘陵要素）の分布の中心地に当たる。

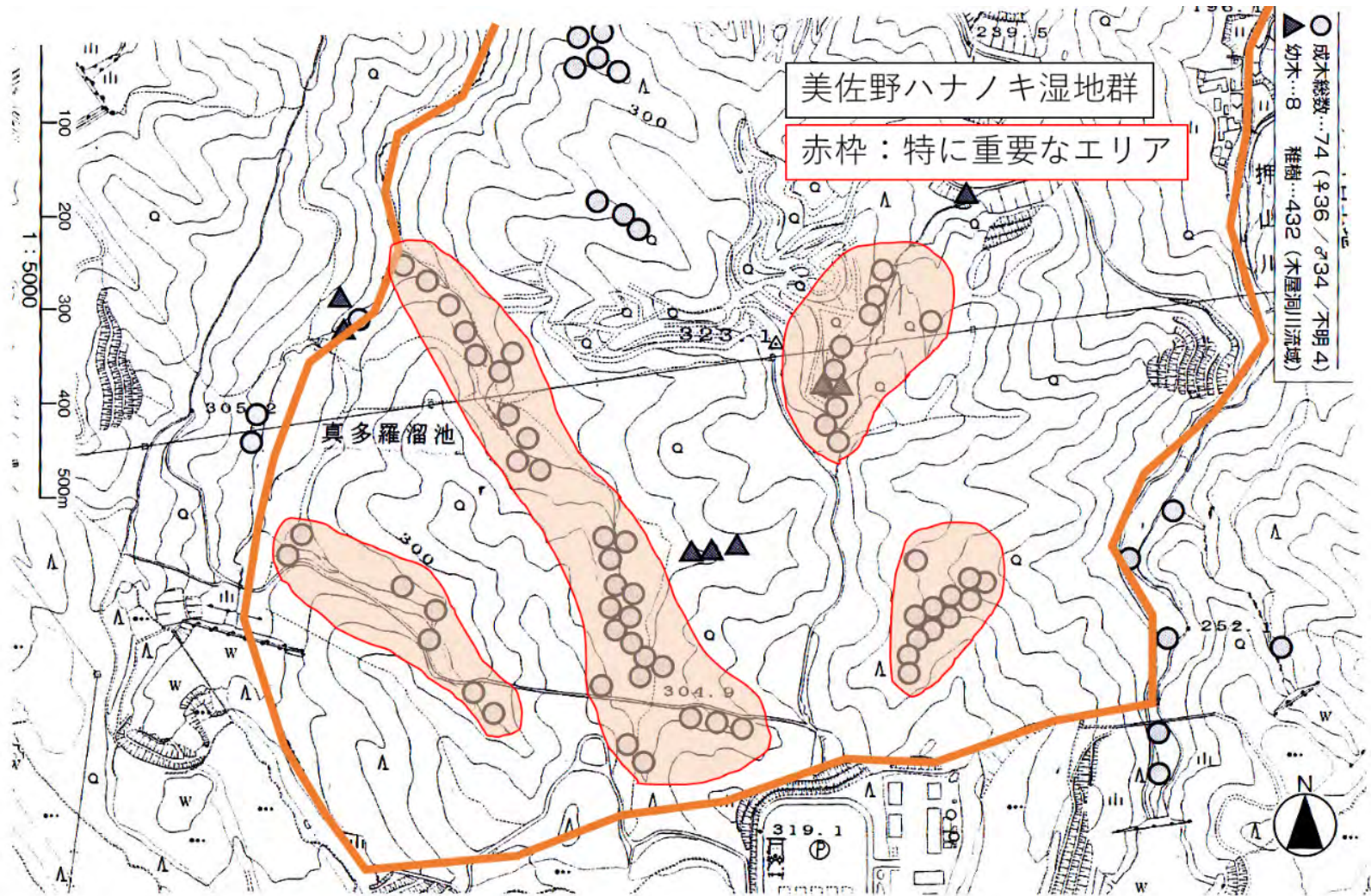


美佐野ハナノキ湿地群の範囲



- 法的・制度的な範囲は存在しない
- 押山川と木屋洞川に挟まれた丘陵地に湿地が多く集まる。
- 湿地・沢筋だけではなく、集水域を含めて両河川に挟まれた集水域山林を含む一帯のすべてを湿地群とみなすのが妥当。

湿地群内のハナノキの分布



御嵩町ハナノキ調査グループ(2015)『御嵩町のハナノキ自生地毎木調査記録』に掲載の図に加筆



ハナノキの大木



灌木の茂る状況



しみ出し水によって湿地が形成

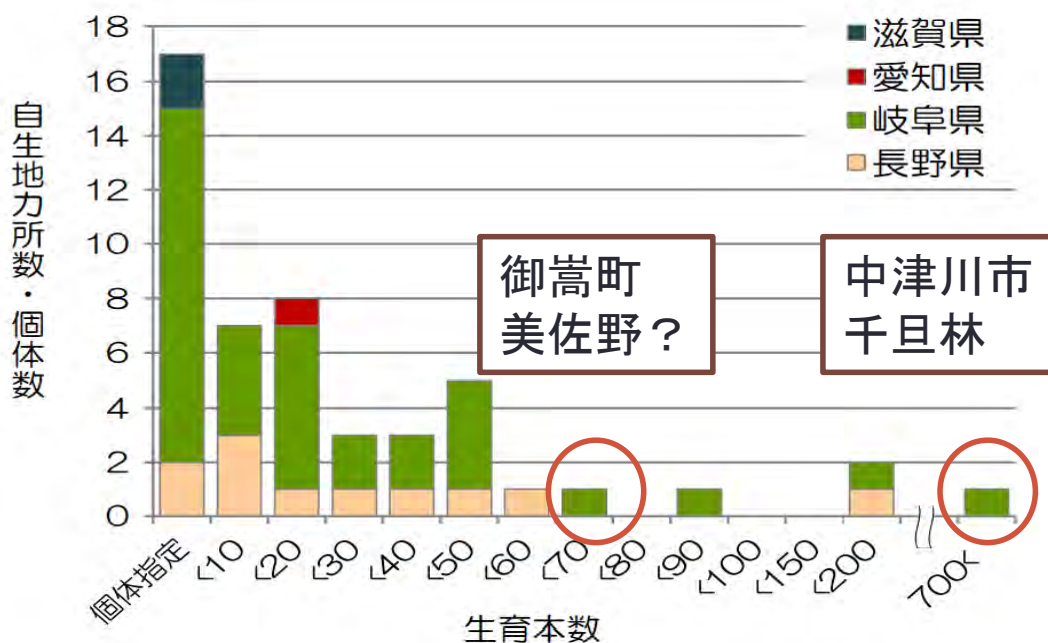
2023.1.24
現地確認

ハナノキ： 屈指の個体数と面積

- 全体で成木が80個体程度（現存5番目程度）。
- 特別に大きな2ha超の自生面積。

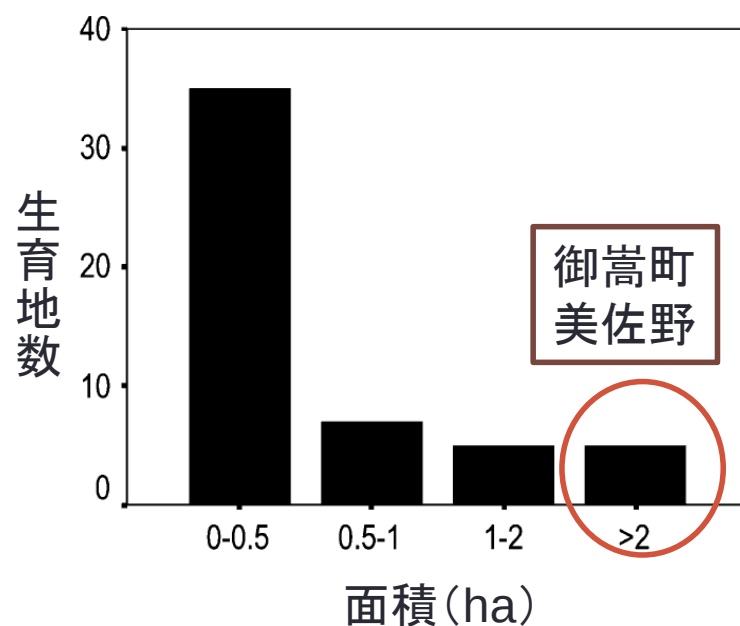
※造成地内個体数このうち3割程度。

自生地別の「個体数分布」



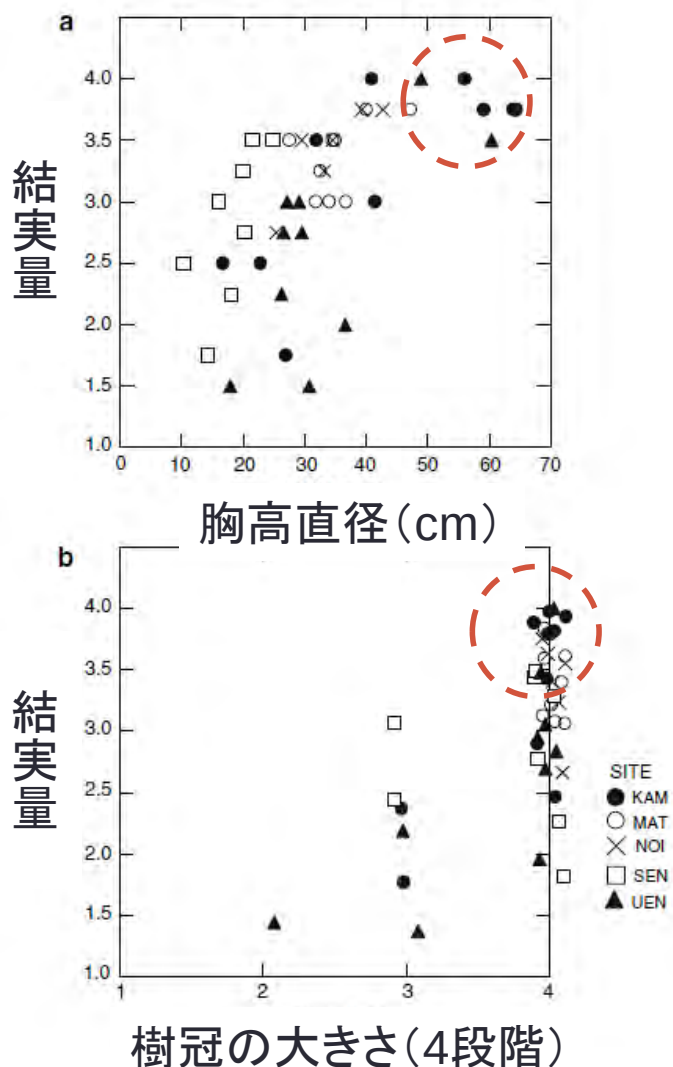
独立行政法人森林総合研究所「希少種の現状と保全」ウェブサイト
(<https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/raretree/index.html>)に掲載の図に加筆

3県47自生地の「面積分布」



Saeki (2005) *Landscape and Ecological Engineering* 1: 135-147

ハナノキ： 安定して咲き実る大木多い



- 毎年安定して開花する雌木は、胸高直径が30cm以上、かつ樹高が高く樹冠サイズ(枝ぶり)が大きいものに限られる。
- 美佐野にはこの条件を満たす雌木が多く生育。

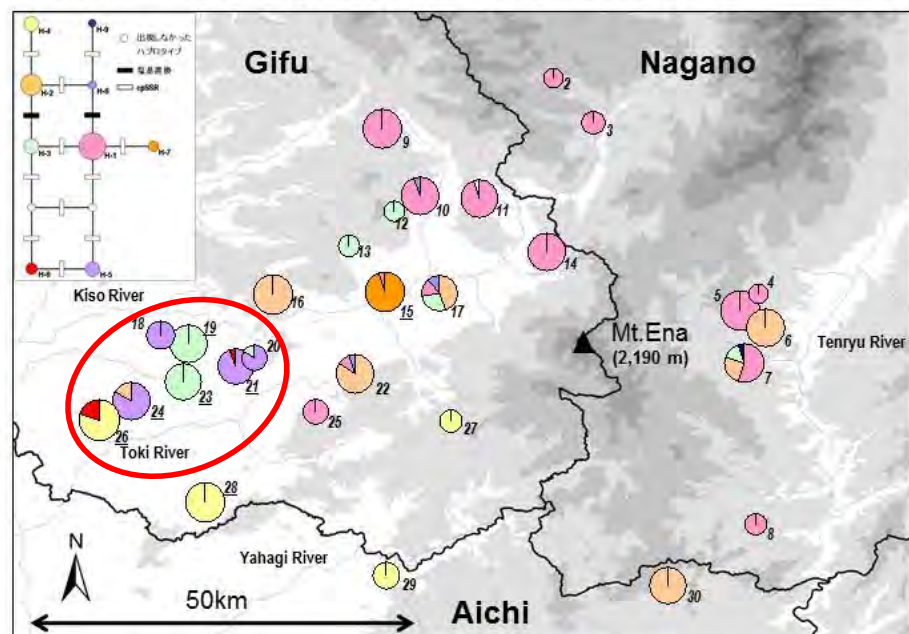
Saeki (2008) *Ecological Research* 23: 719–727

※美佐野での調査結果ではない

ハナノキ： 遺伝的多様性の要

- 東濃東部と異なる多様な遺伝的タイプが混在。
- 個々の自生地が重要で、他所への移植は要注意。

ハナノキの葉緑体DNAハプロタイプの分布

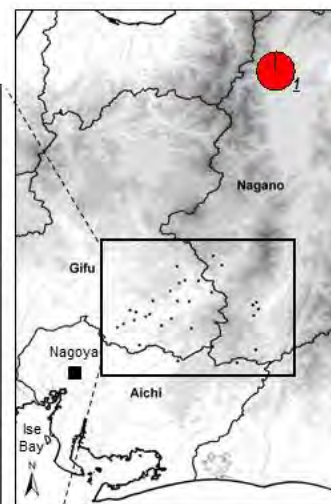


30 sites
N=400

Elevation (m)
 □ 0 — 500
 □ 500 — 1,000
 □ 1,000 — 1,500
 □ 1,500 — 2,000
 □ >2,000

Haplotype
 H-1 H-2 H-3 H-4 H-5
 H-6 H-7 H-8 H-9

(Saeki & Murakami 2009 Diversity & Distributions 15: 917-927)



- ・9種類のハプロタイプ
- ・地理的なまとまり

かつてもっと個体群が大きかったことを示唆。美佐野は最後の砦のひとつ。

ハナノキのほかにも多くの価値

- 東海地方の固有・準固有であるシデコブシ・ミカワバイケイソウ・クロミノニシゴリが多数自生。カザグルマのような希少種もある。
- 部分的に、イヌノハナヒゲ類・ヌマガヤ・サワシロギクのような植物の生育する**草本植生の卓越する湿地**が存在。
- マルバノキのような東濃地域を特徴づける森林植物、ミゾゴイ・サシバなどの希少な鳥類が確認されている。
- 里山・水辺の多様な環境が存在。**憩い・環境教育・レクリエーションの場としての潜在性**がある。

湧水湿地保全の基本的な考え方

- まとまった湿地群として保全する(※)
- 集水域全体に目を配る
- 湿地内外ともに植生遷移の進行を抑制する(植生遷移の途中相を維持する)
- 土砂の絶え間ない移動(攪乱)
- 豊富で貧栄養な地下水(水供給)
- 長時間の日あたり(日照)
- 湿地内に多様な環境(水条件・微地形など)が生じるようにする

エリア内に湿地がまとまっていること

